

「女性と教育（国際比較）」について考える

日本とイギリスの女性の比較：結婚・子育て・仕事のバランスの視点から

平成 26 年 11 月 11 日 佐藤淑子

親資源は有限：時間・体力・経済力・心のエネルギー。この有限の資源を自分と子育てにどう配分するか？

（講談社現代新書 柏木恵子『親と子の愛情と戦略』2011）

【1】イギリスと日本の家庭の比較

基本は夫婦中心のイギリス、母子中心の日本

乳幼児と過ごす時間と空間を限定するイギリス、できるだけ共に過ごす日本

—具体的には—

< 母親として >

- ・就寝形態： 母子別室就寝のイギリスと母子同室就寝の日本
 - ・夕食の時間： 幼い子どもは先に食べさせて寝かせるイギリス、母子で夕食をとる日本
 - ・夏休み： キッズプログラムとキャンプを利用するイギリス
 - ・来客： イギリスは大人の社交の時間、日本は家族ぐるみ
 - ・ママ友： イギリスは幼稚園送迎の分担(母の負担の軽減)、ママ同士のコミュニケーションも求める日本(園やおけいこの場所への送迎時のおしゃべり)
 - ・移行対象物： テディベアは子どもの親友のイギリス
 - ・育児用具の使用： イギリスは積極的に使用する 子どもの安全と母子の身体的自由の確保のため
 - ・レストランや映画館： 夫婦だけのイギリス、子どもも含めた家族連れの日本
 - ・ベビートーク： できるだけ早く大人の言葉にしたいイギリス、赤ちゃん言葉をいつくしむ日本(7 歳までは神のうち・丁寧語の使用)
 - ・家の中で子どもがママにお礼を言うイギリス： 親はマナーの練習台 (Thank you と Please)
 - ・ベビーシッターの利用やナニーの存在： 子育てで人に任せられることは任せるイギリスの中産階級
 - ・子どもが入れない客間のあるイギリス： 子どもの生活はファミリールームで
 - ・イギリスの賑やかなバースデーパーティは子どもの挨拶や友だちづきあいの練習
- < 妻として > —イギリスの女性の場合は—
- ・夫婦二人だけの食事・コーヒータイム
 - ・夫婦二人だけの外食やコンサート
 - ・夫婦二人だけの旅行 祖父母に預けて出発するイギリス(乳幼児を抱える夫婦・中年の夫

婦ともに)

・「イギリスのいい子 日本のいい子」の事例 「イギリスのホテルにて」

参考文献 佐藤淑子 『イギリスのいい子 日本のいい子』 中公新書 2001 年

【2】キャリアウーマンの比較 (文化の違いが顕著に出る層なので取り上げる)

1) 日本の輝かしいキャリアウーマン

引用文献 My Life: Twenty Japanese Women Scientists . Yoshihiro Kozai(Eds.) ,
Uchida Rokakuho. 2001

猿橋賞を受賞した 20 人の日本人女性科学者の人生を紹介。そのうち、20 人中 9 人が結婚と子育てに言及しているが、8 人をここでは紹介する

・ Masako Osumi(1935) 生物学者 日本女子大教授

23 歳で結婚、25 歳で出産のため実家に同居。片道 2 時間半かけて大学院へ通学。

・ Yoshie Souma(1942) 化学者 神戸大学教授

結婚し 40 歳で出産。子どもはよく病気をし、夜、大学の研究室に戻ろうとすると袖をつかんで泣いた。

・ Miwako Mori(1943) 有機化学 北海道大学教授

結婚して二人の子どもを持った。振り返ると子育ては楽しかったが、夜、子どもと家になければならないのはつらかった。

・ Shihoko Ishii (1950) 数学者 東京工業大学教授

修士課程が終わったところで結婚した。息子が生まれ、研究と子育てとの両立は大変だった。

・ Maki Kawai(1952) 物理学者 理研主任研究員

大学院生の時に結婚し、夫は単身赴任した。二人の子どもが生まれた。

・ Tomoko Nakanishi (1950) ライフサイエンス 東京大学教授

博士課程を修了する直前に結婚した。研究所で働いているときに出産した。

・ Tetsuko Takabe (1947) 農業科学 名古屋大学教授

夫には感謝している。娘を保育園に送迎してくれた。私の簡単な料理を二人ともちゃんと食べてくれた。

・ Keiko Nishikawa(1948) 構造化学 千葉大学教授

25 歳で結婚し、4 年後に娘を産んだ。娘が中学校に入るまで、子育ては大変だった。

2) イギリスの輝かしいキャリアウーマン

引用文献 The ^{*1}Compleat Woman : Marriage, Motherhood, Career . Valerie Grove ,
Chatto & Windus . 1987

ヴィクトリア時代の女性：子どもを持ったがキャリアを持たないことが特徴。80 年代の女性はキャリアを持つが、子育てが重圧である。では、移行期の女性の生き方はどうで

あったか？

注)*¹The Compleat Woman の意味 Compleat は名門ホテル The Compleat Angler に倣った

The Compleat Woman 条件とは？

- ・結婚を継続させている
- ・子どもを3人以上産んでいる
- ・家庭外での卓越した仕事の達成

イギリスの20人のキャリアウーマンを紹介しているが、ここでは5人を取り上げた。

Mary Warnock (1924) ケンブリッジ大学 ギルトンカレッジ学長

5人の子ども、哲学者

私の母親は仕事を持たなかったが、だからといって子どもと一緒に過ごす時間は少なく、私はナニーにより子ども部屋で育てられた。オックスフォード大学に進学。のちにオックスフォードのハートフォードカレッジの学長となる Warnock 氏と結婚。

二人とも薄給だったので経済的には苦しかった。最初に*²ナニーとして雇った女の子のお給料は私より高かった。夫の父親が家を貸してくれて支援してくれたが、きちんと家賃を返済した。6歳以下の子どもが3人いる時期は大変だった。誰かは学校に行きたがらない、誰かは咳をしている、誰かは病気にかかっていそうなど。

住み込みのナニーをいつも雇っていたし、ナニーとはうまく折り合ってきた。義父が亡くなった後、義母が同居してくれたので助かった。子どもたちとの申し合わせは、夜、7時半以降は階下を下りてこないこと、私たち夫婦二人の食事の邪魔をしないこと。

母としても妻としても十分にはしてこなかったけれど、夫、子ども、ナニーを含めたチーム全体としてはうまくいったと思う。

キャリアと家庭生活の両立を望む後輩たちへのアドバイスは「外部の支援を頼む」事。

Dr. Elizabeth Shore(1927) 医者 厚生省の公務員 4人の子ども

子どもが生まれても、仕事に戻らなければならなかったけれど、お金は潤沢ではなかった。でも働き続けることについて、私には迷いがなかった。お向かいの家の女の子が赤ちゃん好きだったので2カ月ほど預かってもらった。その間に*³オペアガールを探して雇った。仕事と子育ては大変だったけれど、内容は全く違っているし、その成果も全く違う。週日は遅くまで働いたけれど、週末は仕事をしないようにした。料理をしたり、子どもたちをどこかに連れて行ったり、ジーンズでずっと過ごした。一度数えてみたら二日で87人分の食事を作っていた。子どもたちがいっぱい友達を連れてきたから。末っ子が11歳までオペアガールに来てもらって、その後は家族で家事を分担した。

Barbara Mills, QC(1940) 法廷弁護士 4人の子ども

結婚して、司法試験を受ける前に子どもを産んだ。それから二人目も授かった。小さな子どもがいてどうしようかと思った。それで古ぼけた大きな家を買った。地階と1階は自分たちで使い、2階と3階は人に貸した。ナニーがいたので保育室を始めた。認可

を得て、最大時は24人もの園児がいた。保育者を雇い、給食のための調理師と掃除婦を雇った。ちっとも儲からなかったけれど、採算は取れた。自分の子どもたちはすべてこの保育室で育て、末っ子が小学校に入学したときに閉めた。

両立の条件：

1. 妻に働いてほしいと思っている理解のある夫
2. そこそこお金が必要。2台の車が必要。子どもたちの6カ月分の衣服を、ぼっかり暇ができた一日で買うこともあった！

Professor Elizabeth Anscombe(1919) ケンブリッジ大学教授 7人の子ども

とてもよい家政婦に巡り合えて、21年間、彼女を雇った。子どもたちもなついてくれたし、家事に精を出し、子どものけんかも止めてくれた。ナニーも雇って切り抜けた。それでも子どもたちの洋服にはいつもボタンが足りない、靴ひもをきちんと結んでいないと学校から注意された。夫が「私も同じようなものだ」と学校に言い返してくれた。

学生の論文指導は、午後、自宅に来てもらい行った。結婚を長続きさせる秘訣は夫といっぱいおしゃべりすること。

Alison Smithson (1928) 建築家 3人の子ども

学生のベビーシッターを雇った。秘書は買い物もしてくれたし、大きな子どもたちは家事や料理をした。家政婦も一日に数時間、来てくれていた。原稿書きと料理と子どもとのジグソーパズル、子どもの定期試験、授業参観、デザインの打ち合わせなどを同時並行でこなした。ひとつの原稿は20分と落ち着いて書けなかった。週末は生活のリズムをがらっと変えた。子どもをボート遊びに連れ出すことは、新しい建築のプロジェクトと同じぐらい大事にした。子どもたちは有名人の父母を持って苦労もしたと思う。

注) *² ナニー(住み込みや通いのベビーシッター)

*³ オペアガール(移民で家事手伝いやベビーシッターを担う住み込みの女性)

インタビューした Grove による考察 キャリアと子育ての両立の条件とは？

- ・職業生活は「子どもたちに邪魔されてこそ」というキャリアウーマン自身の覚悟
- ・彼女たちの夫の共通項は「結婚に満足し妻が自慢であること、女性の人生における自己実現の願いを守ること」
- ・子育てと家事の外注をする

【3】イギリスのキャリアと子育ての両立

高学歴女性の働く母親の多いヨーロッパ 専門職、基幹的職務への復帰難しい日本

高学歴無職の女性の育児不安の高い日本

要因・ヨーロッパの学校教育・職場教育の成果を大切に生かすスタンス

・多様性の是認→他者のライフスタイルへの寛容性

イギリスのWLBはオランダのようにWLB先進国ではなく、長時間労働(2004年のデータによれば男性は日本1位、韓国2位、イギリス3位)という課題を抱えていたが(矢島、

2009)、2000 年より WLB 施策を推進。2007 年の男女の所得格差はイギリスが男性 1 に
対し女性 0.66、日本は女性 0.45 と 24 か国中 2 番目に大きい。(韓国は 0.40 で 1 番目)

イギリスの変革

2000 年 WLB 向上キャンペーン

2003 年 フレキシブル・ワーキング法：6 歳未満の幼児または 18 歳未満の障がい児を
養育する被雇用者に雇用主に対して請求する権利を認める

短時間勤務・ワークシェアリング・フレックスタイム・*4 学期間勤務

*4 学期間勤務：学校の休暇期間中に無給休暇を取ることができる

2004 年 「子育て支援 10 ヶ年計画」：教育技能省の取り組み

女性のスキルアップを行いライフステージが変化するなかでも、柔軟に就業継続
再就業、管理職へのチャレンジなどができる。

2007 年 仕事と家族法：従業員との関係がよくなった・モチベーションが上がった・
採用がしやすくなった

その結果、

- 1) 女性の育休から復帰が増える。仕事と家族法を取り入れている企業ではより顕著。
- 2) イギリスの場合、女性の就労率そのものは WLB 施策推進以前から上昇傾向にあり、
M 字型カーブ(年齢階層別女性労働力率が子育て期の 30 歳代を谷間とする)は解消
されていた。近年の変化としては 3 歳未満の子どもを持つ女性の就労率が上昇し
た。
- 3) 2000 年以降出生率の回復がイギリスでは見られる。
- 4) 子どもを含めた家族の質的な変化に注目 (QOL) 保育従事者の教育や処遇改善を通
じたレベルの向上や環境整備の予算投入
- 5) 男女ともに WLB への満足度は日本より高い

引用文献：

矢島洋子 「わが国の女性就業の特質」 武石恵美子(編) 『女性の働き方』 pp. 44
～70 ミネルヴァ書房 2009 年

矢島洋子 「イギリスにおけるワーク・ライフ・バランス」 武石恵美子(編) 『国際比
較の視点から日本のワーク・ライフ・バランスを考える』 pp. 213～251 2012
年

【4】日本とイギリスの国際比較から見えること

1) 女性の自律

日本もイギリスも伝統的に性別役割分業の傾向が強い国であるという共通項があるが、
イギリス人の個人主義は、女性の仕事と子育ての両立の仕方にあらわれている。

「自分なりのやり方で、他の人に迷惑をかけずにうまくいく」というイギリス人女性の精神。

自分たちのやり方がほかの家庭とは違っても、自分たちの家庭独自の方針を維持し続けている

子どもたちが自分たち夫婦の生き方をモデルとして見ているだろうという子育ての環境づくりの自信

女性が仕事・子育て・夫との折り合いのバランスをうまく調整し、その多重役割を最終的に統制しているのは自分であるという主体性の自覚、母親の自我の強さ。子育てを支援してくれるさまざまな援助を受けながら、子育ての主体は家庭にあるという明確な意識。

労働者階級の母親は?

イギリスは階級社会であるので上述の傾向は、経済的に恵まれている中産階級の女性の話ではと思うかもしれないが、労働者階級の母親についてもスー・シャープが、仕事と育児を両立させることがどんなに大変であっても、仕事を持つことによって独立心と自己確認を手にし、それが家族との関係をよくすると書いている。

(『ダブルアイデンティティ 働く母親 イギリス 101 人の声』創元社 1986)

2) 親子関係

イギリスの子育ての特徴は、母親自身と子どもの自律を大切にすること。母親の時間と母親ではない時間を同等に大切にすることによって、子どもとの適度な心理的距離を保ちながら人生を楽しむスタンス。

日本とイギリスでお母さんのイメージをことばで表したものを比較した研究によると、子どもが小さいうちはそう違いはない。「自分を守ってくれる」「仲良し」「一緒」など。大学生の比較では日本人には「離れる」「けんか」など否定的なコメントが目立つ。イギリスの大学生は「話す」「電話する」とか母と子の会話を強調する傾向。

(山田洋子・加藤義信 「母子関係イメージを記述することばの日英比較(1)」『日本心理学会論文集』, 1993 より)

3) 夫婦関係

夫婦間のコミュニケーションを重視するイギリス

威圧・無視・回避の多い日本の夫。妻が同等の経済力を持った夫婦で夫の共感性が高まる。男性のレポート・トークと女性のラポール・トークの違い

(鈴木淳子・柏木恵子 『ジェンダーの心理学』 培風館 2006 年)

女性の生き方を考える上で、イギリス女性の仕事との距離、子育てとの距離の保ちかたにおいて、ヒントが得られるのではないか。